



01 光明寺石造宝篋印塔 (尾道市重要文化財)

尾道市西久保町 / 室町時代初期
高さ2.02mで、道宗双救上人供養塔と伝えられる。浄土寺の宝篋印塔より時代は新しいと考えられるが、均整のとれた美しい造りである。

02 千光寺阿弥陀三尊像(磨崖仏) (尾道市重要文化財)

尾道市東土堂町 室町時代 寛正2年(1461)
花こう岩製で、阿弥陀如来・勢至菩薩・観世音菩薩が舟形の中に彫られている。一部に朱が残っていて、当初は彩色されていたと考えられる。

03 千光寺石造逆修塔 (尾道市重要文化財)

尾道市東土堂町 / 安土桃山時代 天正17年(1589)
花こう岩製で、舟形の石に尊仏を彫っている。逆修(生前に自分の供養、または年長者が若い死者の供養をすること)目的で造られている。

04 千光寺山城跡

尾道市東土堂町 戦国時代～安土桃山時代
港町尾道を見下ろす千光寺山山頂にあり、現在の千光寺公園内に所在する。天正12年(1584)に木梨杉原氏の杉原元恒が城を築いたことが始まりとされているが、当時の城は岩のような簡易な建造物であったと考えられる。当時の遺構はほとんど残っていないが、尾根上に階段状の6段の郭が並んでいる。天正19年に豊臣秀吉により山城停止令がだされ、廃城となった。

05 天寧寺塔婆 (重要文化財)

尾道市東土堂町 南北朝時代 嘉慶2年(1388)
当初は五重塔として建立されたが、江戸時代に上二層の老朽化により、撤去され三重塔とされた。斜面地につく塔は、尾道水道との景観が見事にあい、素晴らしい威容を誇る。

06 正授院廻国塔

尾道市長江一丁目 安土桃山時代 天正16年(1588)
花こう岩製で高さ2.38mである。尾道で戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した豪商笠岡屋の小川道海が六十六部として、諸国の霊場を廻り、これを建立している。小川氏の名前は現在でも小川小路として残っている。

07 福善寺石造五輪塔 (尾道市重要文化財)

尾道市長江一丁目 鎌倉時代後期
花こう岩製で、高さは2.67mと2.68mである。福善寺の墓地内にあり、この場所は室町時代に港町を監視していた丹花城があった場所である。五輪塔は城主の持倉則秀・則保父子の墓と伝えられる。浄土寺五輪塔や西國寺五輪塔より若干小さいが、その他の五輪塔と比べても大型であり、均整のとれた美しい造りである。

08 常称寺本堂(重要文化財)

尾道市西久保町 室町時代中期 15世紀前半
本堂は、入母屋造で、桁行(けたゆき)5間、梁間(はりま)6間のほぼ正方形の平面である。他の時宗寺院本堂と比べても、規模が大きく、また、内陣の天井も高いことから、寺の格式が高いことがうかがえる。柱には朱漆が塗られており、柱材には「かや」やクスノキ、ケヤキなどが使用されている。本尊は木造阿弥陀如来立像(市重文)で、須弥壇(しゅみだん)には貞治5年(1366)と墨で書かれていて、本堂より古いことが分かる。本堂天井画は龍と飛天が描かれていて、天保10年(1839)の銘がある。

09 常称寺大門(重要文化財)

尾道市西久保町 室町時代前期
常称寺大門は、本堂とその他の伽藍とはJRの線路と国道により、隔てられているが、同じ境内にあり、その南側には、西国街道に面している。堂々とした四脚門(しきやくもん)で、大棟(おおむね)には常称寺にあった祇園社の名残である巴瓦(ひら)がつけられている。

10 常称寺観音堂(重要文化財)

尾道市西久保町 / 室町時代後期
観音堂は、宝形造で本瓦葺きである。江戸時代の絵図では、本堂正面の東側に位置しているが、大正4年(1915)以降に現在の位置に移っている。

11 西國寺金堂(重要文化財)

尾道市西久保町 室町時代 至徳3年(1386)
西國寺の中心的建造物であり、秘仏である木造薬師如来坐像(重要文化財)が安置される。入母屋造、本瓦葺きで、屋根に重量感があり、規模も壮大で和様を基調とした建造物である。石段を登った先に堂々と建っており、愛宕山(あたごさん)の斜面を利用した西國寺の広大な寺院を感じさせる。

12 西國寺三重塔(重要文化財)

尾道市西久保町 室町時代 永享元年(1429)
室町幕府六代将軍足利義満によって建立された。奈良時代への復帰を目指した復古建築で、石製基壇(きだん)の上に立つ珍しい様式である。重量感があり、鮮やかに朱塗された美しい塔である。市街地で最も高い所に建っている塔であり、どの角度から見ても美しい威容を誇っている。

13 西國寺三重塔脇五輪塔

尾道市西久保町 鎌倉～南北朝時代
三重塔の脇に立つ市内最大の五輪塔。高さ2.9mのその堂々とした外観は均整がとれており、尾道の中世石造物の代表例である。

14 西郷寺山門(重要文化財)

尾道市東久保町 南北朝時代 貞治年間(1362～1368)
堂々とした四脚門で、板葺(いたかえるまた) (建物の横材を受けるカエルの足のような幅広い材)などに時代の特徴がみえる。

15 西郷寺本堂(重要文化財)

尾道市東久保町 南北朝時代 文和2年(1353)
足利尊氏建立と伝えられ、時宗最古の本堂建築である。寄棟造で屋根の反りは建築美に優れており、中世寺院建築の美しさを表現している。内部には、手をたたくと龍の鳴き声が聞こえる「鳴き龍天井」もある。本尊は木造阿弥陀三尊像(市重文)で、足利尊氏の念持仏と伝えられる。

16 浄土寺山門(重要文化財)

尾道市東久保町 南北朝時代
堂々とした四脚門で、切妻造の本瓦葺きである。山門の側面には、足利家の家紋である「二引両」がつけられ、足利家ゆかりの寺である浄土寺を代表する建造物である。

17 浄土寺本堂(国宝)

尾道市東久保町 鎌倉時代 嘉暦2年(1327)
全国でも代表的な中世の密教本堂の傑作。入母屋造、本瓦葺きで瀬戸内海沿岸に分布する折衷様式の代表作である。建武3年(1336)に参詣した足利尊氏は、本堂脇にて戦勝祈願したと伝えられる。本堂内には秘仏である木造十一面観音立像(重要文化財)がある。

18 浄土寺阿弥陀堂(重要文化財)

尾道市東久保町 鎌倉時代 貞和元年(1345)
寄棟造、本瓦葺きの和様建築の傑作である。本堂内には本尊である木造阿弥陀如来坐像(広島県重要文化財)が安置されている。正面から見て、背後の緑豊かな木々と、阿弥陀堂の緩やかで均整のとれた美しい屋根の反りの調和を感じてほしい。

19 浄土寺多宝塔(国宝)

尾道市東久保町 鎌倉時代 元徳元年(1329)
中世の多宝塔として、滋賀県石山寺多宝塔と和歌山県金剛三昧院多宝塔と並び、三大多宝塔の一つである。この建造物は、遠くから見て、均整のとれた美しい外観と境内の中世の趣を感じ、彩色された華麗な技術が施された葺(かえるまた)等の細部装飾に注目してほしい。

20 浄土寺宝篋印塔[西側](重要文化財)

尾道市東久保町 / 南北朝時代
高さ1.88mで、花こう岩製である。非常に均整のとれた造りで、隅飾(すみかざり)突起などに南北朝時代の特徴を残している。足利尊氏の供養塔と伝えられている。

21 浄土寺宝篋印塔[東側](重要文化財)

尾道市東久保町 南北朝時代 貞和4年(1348)
高さ2.92mで、逆修目的でつくられている。塔身と基礎の間には芸予地域によくみられる二重蓮華座の基台がある。

22 浄土寺納経塔(重要文化財)

尾道市東久保町 鎌倉時代 弘安元年(1278)
尾道の富豪、光阿弥陀仏を供養するために建立された。市内の石造物で建造年代が分かるものとして最古である。全体的に重厚で鎌倉時代の石造物の美しさ分かる傑作である。

23 浄土寺結界石

尾道市東久保町 鎌倉時代 弘安頃
浄土寺の東と西端にある一石五輪塔。塔身には、文字が彫られていたが、現在でははっきりとは判別できない。西の結界石には、火を受けた痕跡もみられ、浄土寺の正中間(1324-1326)の火災の痕跡の可能性もある。

[屋根の形式]

